

## 玉山 (3952m)

2015.3.21~3.29

台湾は2000を越える3千m級の山が存在する日本以上の山岳国である。玉山登山のベストシーズンは春の5月と秋の10月~11月。この時期は日本からのツアーも多く催行されている。登山だけなら最短4日間のツアーも組まれている。1月~3月は冬山シーズンで2月は完全にクローズとなる。今回、入山者が増え始める4月を避けて雪解けの始まる3月に計画した。この時期だと雪の残る玉山に登ることができることも魅力的である。

小屋のスペースと安全面の観点から玉山登山には「事前許可」が必要である。ホームページの情報では玉山国家公園を通して手続きを行うことができると記されていた。4ヶ月前からの優先申請もあるようだが、俳雲山荘の宿泊の抽選が登山予定日の2ヶ月前より開始され、抽選結果は予定日の40日~1ヶ月前に発表となっている。これでは休暇のスケジュールや航空チケット入手の関係から少し厳しい。そこで確実に期すために日本のエージェントを通して中華民国山岳協会のガイド(組長:林哲全さん)を斡旋していただいた。林さんは協会の理事で日本語ができるので日本人のツアーガイドを務めて収入を得ている。日本山岳協会や日本山岳会の友人も多く何度も日本へ遊びに行っているとのこと。野沢温泉が気に入っていてスキー好きでもあることを伺った。ひょうきんな性格で世話好きな方であった。台湾文化のことや友好を深められたこともよかった。

登山コースは、塔塔加~俳雲山荘(泊)~玉山の1泊2日のコースが一般的である。俳雲山荘の宿泊は上限92名なので、この人数以外は入山を認めていない。宿泊は寝袋を借りる。食事以外の販売は一切行っていない。食料は地元民がポーターとして荷揚げしている。営業小屋ではなく登山のための管理小屋といった感じである。小屋の勤務は2週間の交代制となっている。

登山道はよく整備されている。頂上下のガラ場には鎖が設置され、夜間用に反射材が登山道に設けられていた。登山者の受け入れと安全管理、自然保護がしっかりしていると感じた。このような登山規制についてオーバーユース状態の日本も積極的に検討する必要があると感じた。

当初、林さんからの情報では今季は雪解けが早く、ノーアイゼン、ノーピッケルで大丈夫との連絡であったが、小屋に着いた夜半から雨となり3500m以上では降雪が見られた。暗闇の雪道に難渋し途中で断念する人が多くいた。こちらもノーアイゼンなので林さんが心配してくれたが鎖がしっかり設けられていたので登山を続行、雪景色の玉山山頂を踏むことができた。頂上で写真を撮って下山を始めるころから雲が上がり始め雲海に煙る山々を望むことができた。ご来光を見ることはできなかったが雪景色の玉山に登る事ができて満足した。

3月21日 関西空港~台北(泊) 林さんと合流

3月22日 台北から高鉄(新幹線)で嘉義駅まで行き、タクシーで阿里山に移動

3月23日 阿里山~塔塔加登山センター(専用車) 玉山登山口~玉山前峰分岐~俳雲山荘

3月24日 俳雲山荘~玉山頂上~俳雲山荘~玉山登山口 阿里山から公用バスで嘉義市へ移動  
林さんは台北に戻る 3月25日から29日まで各地を観光

## 玉山登山1日目 2015年3月22日

台北から高鉄（新幹線）に乗車、嘉義駅へ向かう。台湾の新幹線は日本仕様、乗り心地は快適である。嘉義駅からは公用の乗り合いバスで阿里山に向かう予定であったが、花祭りシーズンのため満席、座席を確保できないと降ろされてしまう。次のバスも満席予想、少し費用が掛かるがタクシーで向かうことにした。結果的にはこの選択がよかった。阿里山に向かう道路は大渋滞、タクシーなので旧道に迂回して渋滞を避け 12 時過ぎに阿里山に到着。天気はあまりよくないが大変な賑わいであった。



台北駅



嘉義駅前のバスは満席



櫻祭りの看板



阿里山 驛

昼食後、宿泊する阿里山閣大飯店（下の写真）にチェックイン、十分時間が余ったので阿里山のハイキングを楽しむことにした。阿里山の標高は 2200m、ハイキングで足慣らしと櫻の花見や阿里山鉄路の見学ができたことはよかった。



阿里山香林神木 ↓



妹潭と妹潭の2つで姉妹潭と呼ばれている高山湖

その他、日本統治時代に伐採された紅檜の切り株、四姉妹（伐採された切り株に紅檜が仲良く4本成長している）や三兄弟（伐採された切り株から3本の檜が並んで成長している）と呼ばれている檜を見ることができる。小学校やお寺、博物館もあるので日本統治時代の森林鉄道の役割なども勉強しながら見学するとよい。



**木蘭園（木蓮と辛夷、玉蘭などが咲く庭） 受鎮宮（玄天上帝を祭る華やかな道教の寺院）**

阿里山森林鐵路（阿里山登山鉄道）は2009年夏の大規模水害「八八水災」によって全線不通となっていたが、阿里山の山岳地帯を走る神木線（阿里山駅→神木駅）と祝山線（阿里山駅→祝山日の出駅）は2011年までに修復された。しかし、始発駅の嘉義から阿里山までの区間は2011年4月27日の倒木に伴う脱線事故のため2014年の夏から途中駅の奮起湖までの1日1回の往復運行となっている。全線運行はまだ先である。しかし、奮起湖までの区間を乗車するだけでも楽しむことができる。玉山下山後、嘉義に宿泊し森林鉄道の旅を楽しんだ。



阿里山を走る森林鐵路(上)と切符売り場(下)

沼平駅



下の写真は始発駅の嘉義駅と始発電車（1日1便のみ奮起湖までの区間で運行中）

